

日本海地域の民話から学ぶ心音ルーツ

中山 妙子
Nakayama Taeko

西洋で短く有名なグリム童話から、「赤頭巾ちゃん」を取り上げ、日本海地域の民話との比較をする。

「赤頭巾ちゃん」

誘惑者としての男性に対する注意を教える民話である。グリム兄弟は多くの知恵を世界の子供たちに残し、子育てする親は民話や音楽の物語を語り伝え、子供たちに生きる知恵袋となっている。

欧米社会も東洋も、大地に命を繋ぐ人間社会では、森里海の自然環境に動物や植物つまり生息するすべての命が、互いの知恵で親から子へ・・・子から孫へ・・・一緒に文化を守る仲間組織の共存共生が、宇宙の星である地球の生命を守り、歴史文化を今日まで紡いできたのである。

西洋と比較して、アジアの中でも特に日本海地域の民族民話には音楽を伴うことが多く、生活文化として幼児から年配者まで心音の表現と捉えることができる。

昔むかし・・・ある村のできごとです。

美しく可愛い村娘が母親に おばあさんに焼き菓子&バターを届けるお使いを頼まれて、届ける途中に、森で道草をし・・・悪い狼に出会う。狼は先回りして、おばあさんをたべてしまし、その身代わりになりすました狼との会話。

「おばあちゃん なんて大きな耳をしてるの？」

「お前の話が良く聞こえるようにさ」

「おばあちゃん なんて大きな目をしてるの？」

「もっと良くみえるようにさ」

「おばあちゃん なんて大きな歯をしているの？」

「お前を食べるためさ」

悪い狼は赤頭巾ちゃんに飛び掛り食べてしまいました。・・・

大衆館 1986年初版 『欧米文芸登場人物事典』 確認

幼い気立てのよい娘たちが、誰の話も信用してしまうのを戒める民話です。

グリム兄弟は、このペローの話の結末をハッピーエンドに追加したのである。偶然、猟師がやって来て、狼の腹から二人を助けます。生き返った赤頭巾ちゃんは狼のおなかには、石をつめたら・・・重たい石で、狼は倒れてしまうという・・・お話になりました。グリム兄弟のハッピーな想像力は神話との関連性があり、似た内容は聖書の挿話にも人間社会の知恵として諭されている。世界のすべての大人たちは、可愛い未来の子供たちに、楽しく、情操豊かに「いかに、生きるべきか？」を教え諭す担い手なのである。

ところが、民話に関わる音楽が西洋童話には少ない。日本海地域の例として、浦島太郎と花さかじいさん、韓国の百日紅：さるすべりを取り上げる。

その1「浦島太郎」

室町時代、作者不詳……日本全国に浦島伝説がある。丹後の国の若者：浦島太郎は漁師を生業として暮らしていた。いたずらっ子から助けられた亀(竜宮城お姫様の化身)は、太郎を迎えに来て、竜宮城で夫婦の約束をするが、望郷の心から故郷に帰りついた。そこでは700年(3年と思っていたら300年という説もある)の月日が、約束を破って空けた玉手箱から、むら沙紀の雲(紫煙)となって、太郎も鶴の姿になり、大空へと昇って行くのである。そして神話にある蓮菜の山(滋賀県と言われる説あり)で鶴と亀はいつまでも仲良く暮らしましたとさ……。

架空人名辞典 教育社 1989 初年版



浦島の名は「書紀」の現存最古の「釈日本紀」では雄略天皇の時代の出来事とされ、平安時代以降、各地に浦島伝説が生まれた。明治時代には西洋音楽が教育された日本では民族の知恵を、より楽しく、心の音と表現力で語り伝えるために歌が生まれ作曲された。聴くのみよりも自らの声で、物語を歌うことは脳により強い刺激となり思い出となっていくのである。音楽的に不思議なことは2拍子で表現されるとリズムカルで、明るく記憶できるという点は、次に紹介する日本の代表的な花「桜」にまつわる音楽も同じである。

その2 「花さかじいさん」

心優しい老夫婦は幸福に、性根悪の老夫婦は不幸になるという教えを諭す民話である。

作詞／石原和三郎 作曲／田村虎蔵

うらの は た け で ぼ ち が な く
 しょうじき じいさん ほったれば
 おお ばん こばーん が
 ザク ザク ザク ザク

- ♪裏の畑でポチがなく 正直じいさん掘ったれば 大判小判が ザクザクザクザク
- ♪意地悪じいさんポチ借りて ウラの畑をほったれば 瓦や貝殻 ガラガラガラガラ
- ♪正直じいさん 灰まけば 花は咲いた枯れ枝に 褒美はたくさん お蔵にいっぱい
- ♪意地悪じいさん灰まけば 殿さまの目にそれが入り とうとう牢屋につながれました

その3 「百日紅：さるすべり」

昔むかし、貧しい漁師が海辺で、一人の娘とくらしていました。毎日、毎日、船を出して、漁に出かけましたが、いつでもその日に食べるだけの収穫しかありませんでした。

ある日、娘は「父さん、今日はたくさんとってきてね」と言いおくりました。夕方になり、待っていても父親が帰って来ません。風と波に流されて、沖で、迷っているのだろうと・・・毎晩、毎晩、娘は、薪をかき集めて、高い丘の上で火を燃やし続けました。食べるものも無くなりちょうど百日が過ぎて娘は亡くなりました。村の人々は丘の上に娘を葬りました。ある年の夏から、娘の墓の上に赤い花が咲くようになりました。父親を待って死んだ娘の魂だと思い、「百日紅」の名づけられました。

韓国には悲しみを唄う歌が多くありますが、アリランやトラジなどは抒情的な五音音階に近い旋律で、ヴィブラートを持った発声が美しく取り入れられて歌われている。海外にも伝わった民謡は「アリラン」であり 京畿道、南道、西道、全羅道、江原道という地域の表現が、やや異なっても、高い旋律線の美しさが説得力のある歌唱法は宗教的な影響もうかがえ共通している。

アリラン アリランアラリヨ～ アリラン峠を 越えて行く
 青い夜空に星いっぱい 私の心は悩みいっぱい♪